



正しい知識を知って
安心して介護ができるために

疥癬かいせん

つてなあに？



横浜市

かいせん
疥癬ってなあに？

わきの下、
おへそのまわり、
手・指のあいだ、
かゆくありませんか？
発疹がでていませんか？
もしかすると疥癬（かいせん）かもしれません。



Q 1 かいせん（疥癬）ってどんな病気？

A・・・ヒゼンダニが原因でおきる皮膚の病気です。

家の中には、普通10～30種類のダニがみられます。かいせんは、ダニの一種でヒゼンダニという、人の皮膚などを食べて繁殖していくダニが原因でおきます。

ヒゼンダニは、大きさ0.4ミリくらいで、人の皮膚に入って卵を産みつけていきます。



Q 2 かいせんはどうやってうつるの？

A・・・直接接触することによって人にうつります。

ダニが人の肌から肌へ移動し、うつります。そのため、夫婦間や家庭内で広がります。

また、ベッドや布団カバー、枕などを介して人にうつっていきます。



Q3 かいせんにかかるとどんな症状がでるの？

A・・・はげしいかゆみと発疹が特徴です。

はげしいかゆみがあり、とくに夜間、からだが暖まるとかゆみが増し、眠れないほどになります。皮膚の発疹（皮疹）は、手・指の間、わきの下、おへそのまわり、外陰部など皮膚のやわらかい部分にできます。



Q4 症状は、すぐでるのですか？

A・・・うつってから約週間から1ヶ月たって症状がでてきます。

(3～5日間)

(10～14日間)



Q 5

かいせんかな？・・・と不安なときは

A・・・皮膚科医の診察を受けましょう。

手・指の間、わきの下、おへそのまわりなどにかゆみをともなう発疹がみられ、夜間にかゆみが増す場合は、かいせんを疑い早めに受診し、診断を受けましょう。

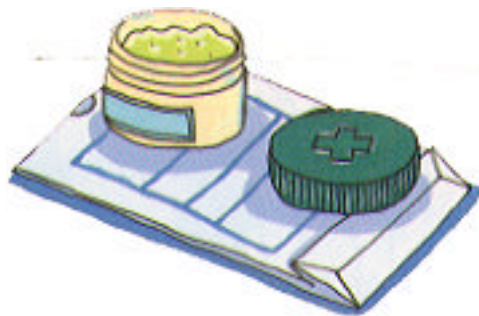
診察では、かゆみ、発疹の状況、家族など周囲の人に同じような症状の人がいないかなど、くわしく話しましょう。知らないうちに家族などにうつっていることがあります。

Q 6

もし、かいせんになってしまったら

A・・・医師の定期的な治療を受け、指示にしたがいます。

かいせんの治療は、およそ2週間から1ヶ月かかります。勝手に通院を中断したり、くすりを塗るのをやめるとよくなりません。医師の指示にしたがって、くすりを正しく塗りましょう。また、完全に治ったかどうか医師の確認を受けましょう。





他の人にうつさないためには

家族にもうつりやすいので注意しましょう。

生活を一緒にする家族などは、知らないうちにうつっている可能性があるので、家族ぐるみで注意しましょう。

部屋は風通しをよくし、床やたたみなどは、ダニが落ちているので、掃除機でていねいに掃除をします。

できるだけ毎日入浴するなどし、身体の清潔を保ちます。

下着、衣類、寝具（布団カバー、枕カバーなど）は、毎日交換、洗濯します。

布団、毛布などは、日光に干します。

布団を共用したり、一緒に寝ないようにします。

タオルや衣類などの共用はさけます。

治療中は、人を泊めたり、外泊旅行などはさけます。

かいせんの人をお世話するときは

日常生活のお世話をする前後には、流水と石けんで手洗いをします。

直接接触して、お世話をする場合は、かっぽう着、使い捨て手袋などを使用するとよいでしょう。

詳しいことは最寄りの福祉保健サービス課、保健所、などにご相談ください。

疥癬ってなあに？

発行 平成6年3月

改訂・電子化 平成11年6月

横浜市衛生局保健部地域保健課・感染症対策課

045-671-3929・2462

横浜市福祉局長寿社会課保健担当

045-671-4129

〒231-0017 横浜市中区港町1-1